

教科書は使わない。

正邪善悪と

人間の生き方を考える学問

自分たちの人生を考える学問

考え方を吸収する。

序論

倫理学入門

倫理とはなにか?

モラル、道德の様なもの

倫＝人が集まっているようす、仲間

理＝ルール、筋道

近代的な学問としては明治時代に成立

倫理的の姿勢は古くからあった

ethics、Ethik、ethique の訳

(英、独、仏)

Ethika(古代ギリシャ語)

アリストテレス(BC384～322)が造語

ethos(エートス)に関わること、と言う意味

古代ギリシャ人が人間にとって大切と考えていたこと

エートス 品性 ethos

風俗・習慣→人間らしい暮らしぶり、気質、性格

ロゴス 理性 logos

パトス 感情 pathos

品性が人間の行為を決定するのだ! by アリストテレス

よき品性→徳

伝統的な倫理学は、徳論が中心

真の正義とは何か?

行為論が、最近の倫理学の課題

現代のメジャー路線＝応用倫理学

環境や生命の応用したらどうなるの?

道德教育と倫理学は根本的に違う

道德教育

一定の価値観を強制する→うそをついてはいけない!!

倫理学

うそは悪いことなのか?人間はうそをつかないで生きていけるのか?

例：人間はうそをつかないで生きていけるのか?

真実のよううそ

うそを見抜く力の育成が大切なのは?

例：ガンの告知

有効な治療法のない遺伝的難病

17C パスカル「パンセ」

人はうそをついてももらいたがっているのでは…?

例：意図的なうそはよくない。→いい加減な性格の人間はどうする

善意あるうそはイイ?結果的に他人を傷つけなければイイ?→そう簡単ではない

倫理学の定義

デューイ(1859～1952)

Ethics is science that deals with conduct, in so far as this is considered as right or wrong, good or bad.

正邪善悪と見なされる行為を考える学問

倫理学って意識の問題?

正邪善悪の判定基準は何?

正邪善悪に関する原理・根拠の探究←講師の定義

「正邪善悪」をめぐる諸問題 1

<倫理の普遍性と相対性>

絶対的な倫理はありうるか?立場によって変わりうるか?

果たして普遍・妥当的な倫理はありうるか?

←いつでも、どこでも、誰にでも当てはまる倫理はありうるか?

倫理は公序良俗、習慣のレベルに表れる? = エチケット、マナーと同じになってしまう

→相対性を免れない

日本的倫理

「和」の重視 ↔ 「個」の重視

「場」の重視 → 「世間」につながる

言語体系からしてそう→思想につながる?

「恥」(場所と自分との関係)←→「罪」(神と自分との関係)

例「菊と刀」 日本人の倫理観の特殊性

→「滅私奉公」

約束を守る→ある程度の普遍性はある＝濃淡は(相対的で)あるが

「約束は守らなくてイイ」という社会はない。

表面的、具体的な表れは相対的である。

→相対化「郷に入らば郷に従え」 空気を読む

→もっと深いところ(根本的)なところに普遍性(倫理)があるのでは?

「正邪善悪」をめぐる諸問題 2

「許せない」にもレベル差がある。人として許せない→「普遍性」があるはず。

<動機説と結果説>

判定基準を動機に求めるべきか、結果に求めるべきか?

I.カント(1724～1804) VS J.ベンサム(1748～1832)

原理なので両立はできない。

カントの考え→哲学者

「動機説」=motivism

善悪の判定基準は動機だ

結果を基準にすると、運不運に左右される

→不純だ! 自律性、純粋性が失われる!

例

ボランティアの強制は自己矛盾となってしまう

ベンサムの考え→法律学者

「結果説」=consequentism

社会生活では結果がすべてだ!

動機なんてのは、みんな同じようなモノだ!

例: 偽善的が悪いと思うなら、動機説を取るべきだ。

→独善におちいる可能性がある。

→人の心は覗けない

偽善と善の区別なんか関係ないと思うなら、結果説だ。

→結果は連綿と続くので、どこで切ったらいいのかわからない。

テロリスト: 動機説的にはよいひと

→結果説に立たないとテロは防げない?

法と倫理の関係

倫理の世界では動機を重んじる傾向がある

法の世界では結果を重んじる傾向がある

例：殺人事件

殺意があったのか?→倫理の判断

その行為によって人が死んだのか?→法の判断

法的な基準→最低線の基準

倫理的な基準→できればこうありたいと言う基準

倫理は自律的世界

法は他律的世界

例「ハインツのジレンマ」

貧しいハインツが難病の子どものために一生かかっても買えない薬を盗んだ。

許される行為か

なぜ人を殺してはいけないのか？

倫理的には説明が難しい・・・。

M.ウェーバー(1864～1960) 社会学者

近代人の倫理

心情倫理と責任倫理

心情倫理(Gesinnungsethik)とは

結果を気にせず正しいと思う信念に従って行動する

例 宗教家、スポーツ選手、芸術家など

責任倫理(Verantwortungsethik)とは

この行為がどういう結果になるか可能な限り考える

→結果が×でも、他に責任転嫁しない。

例 政治家、企業経営者など

責任倫理がいいのではと、ウェーバーは考えていたようだ。

今日のまとめ

倫理は簡単じゃない